

# わが市わが町 「愛川町」



愛川町環境経済部  
あいちゃん

愛川町は、神奈川県中央北部に位置し、東京都心から 50 km 圏内、横浜市中心部から 30 km 圏内にあり、相模原市・厚木市・清川村の 2 市 1 村に隣接しています。

町北西部の半原地区は、江戸時代から地場産業として繊維産業である撚糸業が発達し、現在でも「糸の町」として広くその名を知られています。

一方、町南東部の中津地区は、昭和 41 年の県内陸工業団地の完成により経済活動が活発化し、これに伴い町の人口が増加しました。



(中津川の清流)

町の中央には丹沢山塊を源とする中津川が流れ、上流部はかつて丹沢山麓唯一の渓谷美といわれた「中津渓谷」がありましたが、平成 12 年の「宮ヶ瀬ダム」の完成により、現在はずかな面影を残すのみとなっています。

宮ヶ瀬ダムは、首都圏最大級

の大きさを誇る多目的ダムとして、洪水・渇水時の放流量調節や水力発電のほか、全国的にも珍しい「観光放流」を実施するなど、首都圏近郊の観光スポットとして多くの観光客が訪れています。また、ダムによって生まれた人造湖である「宮ヶ瀬湖」は、神奈川県の水がめとして、横浜市や川崎市など県下 15 市 5 町に水道水を供給しています。

さらに、ダムの下流では、夏から秋にかけて鮎釣りや、川遊びなどで賑わい、中津川の清流に親しむ人たちの姿を見ることができます。



(仏果山山頂からの眺め)

また、町西部には、仏果山・高取山の山並みがあります。どちらも標高は 700 m 台で、宮ヶ瀬湖や丹沢山地を眺めながらの山歩きが四季を通じて楽しめることから、日帰りの登山客に人気があります。

本町の森林に目を向けますと、森林資源の現況は、森林面積が 1,498.73ha で、町の総面の約 4 割を占めています。この

うち、愛川町森林整備計画の対象となる民有林面積は 1,460.67ha、うち人工林面積は 572.49ha、天然林面積は 825.08ha です。主な樹種としては、針葉樹のツガ・モミ・ヒノキ・マツ・スギ、広葉樹のナラ・クヌギ・アカシデ・タブノキなどの植生が多種にわたり生育し、町の豊かな自然環境を形成する要素となっています。



(箕輪耕地遠望)

森林整備については、県の補助金・交付金を活用し、町森林組合と連携して整備を進めていますが、特に、本町は水源地域の自治体であることから、水源環境の保全及び下流域へ良質な水資源を安定して提供するという意識を持ち、計画的に整備を実施し、森林の有する公益的・多面的機能の高度発揮及び持続に努めています。

そして、この豊かな自然環境を本町の財産として将来へ引き継ぐためにも、今後も適切な森林管理を推進していきたいと考えております。

(愛川町環境経済部農政課)